

# Weekly Michael's News

## <今週の聖句>

2018年1月15日発行 No.61

『エリは、少年を呼ばれたのは主であると悟り、サムエルに言った。「戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話しください。僕は聞いております』と言いなさい。」サムエルは戻って元の場所に寝た。主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。「サムエルよ。」サムエルは答えた。「どうぞお話しください。僕は聞いております。』」

(サムエル記上 3:9~10)

## <チャプレンのドタバタ正月日記!! 「命」と「食」という自らの土台を見つめ直すチャンス!?!>

早いものでもう1月も半ばを迎えています。皆さんはこの年末年始をどのように過ごされましたでしょうか? 実は私、5人兄弟の末っ子で、兄弟の子供(甥っ子や姪っ子ですね)が自分の子供も含めて20人もいます。今年は海外で生活している家族も帰省し、久しぶりに親戚一同が集まりとても賑やかなお正月となりました。飲食店を営んでいる姉や栄養士の資格を持つ義妹も集った事から、急遽「おせち料理を作ろう!!」大会が開催、キッチンは大忙しでしたが、家族で囲む食卓は、とても美味しく、楽しく、そして改めて家族の繋がりを確認できた年末年始となりました!!



クリスマスは家族で教会へ



お餅マシンの威力に皆仰天!!



家族で囲む食卓には自然な笑顔が

また、そんな中でおせち料理の細かいメッセージを教わりました。ここでいくつかを紹介します。  
海老…腰が曲がるまで長生きできるように、長寿を願う。また白と赤で新年のお祝いの意味を込めて。  
数の子…にしんの卵ですが、たくさんの命を受ける事で、子孫が繁栄するように願って。  
伊達巻…形が巻物に似ていることから、知識や教養が身に付き、学術が成就する事を願って。  
お餅…神様にお捧げしたもののお下がりとして豊作を願いつつ、物事の取り組みに粘りが出るように。  
かまぼこ…元日の日の出を表しており、紅白は邪気払いや神聖などの意味も込められる。  
れんこん…穴が開いていることから、新しい年の「先の見通しが開ける」事を願って。  
黒豆…「まめに(健康に)暮らせますように」という願いを込めて。  
田作り…昔、いわしを田の肥料に撒いた事から、豊作を願って。  
昆布巻き…「よろこぶ」にかけて(ちょっと苦しい?)。

…など等、紙面の限界でこの辺りにしますが、昔から「食」と様々な「思い」や「願い」が結び付けられていた事が分かりますね。新しい年、身の周りの一つひとつに込められた意味を考えつつ歩む事で、皆さんが心に抱く願いや想いが成就する事をお祈りしています。



その意味を覚えつつ食する…

1月9日(火) テーマ:「虹の根元にいる人は」

伊藤 純子(オルガニスト)

2枚の風景を紹介したい。1つ目は、年末の帰省途中に新幹線から見た大きな虹だ。ほとんど切れ目の無い、半月型の、見事な大きさと鮮やかな色彩に心躍ったが、私は「虹の根元にいる人はどんな感じなのだろう」という疑問を抱いた。根元にいる人には、虹の光が見えないのではないか、こんなに綺麗なものに照らされているのに、照らされている人は、自分が照らされている事に気付かないのではないだろうか…とも思った。もう1つは、家族で何度か宿泊した事のある六甲山ホテルからの風景だ。海が見える部屋からカーテンを開けて、朝日を眺めた時の事が忘れられない。その頃、私は悩み事を抱えていたが、こうやって太陽の力強い光に照らされ、支えられている…と、その風景にとっても救われる思いがした。今日の聖歌には、秋の月や冬の雪等、四季折々の自然の美しさが謳われている。自分を振り返る時に、その様な美しいものが目の前にあるのに、気付けない事が多いのではないかと思う。自分に与えられているものには気付かず、逆に他人の嫌な所や、羨ましい所に心を奪われてしまう事が多いようにも思うが、自分に注がれている「美しい光」＝「自分に注がれている神様の愛」を感じ取れば、本当の幸せになれるのではないだろうか。身の周りの美しいものを「美しい」と感じる心を常に意識して、そのためのアンテナを張っていたいと、改めて思った。

1月10日(水) テーマ:「医療の倫理」

八木 知人(リハビリテーション学部)

近年、科学技術の発達により高度な医療が実現した。これにより、昔は治療できなかった病気が新しい技術によって治療可能となったり、個人の希望に合った医療を選択することが可能となったりしている。中でも遺伝子进行操作する医療や、今話題のiPS細胞を利用した医療が試されつつある。治療ができる事は、当事者にとって大変喜ばしい事ではあるが、「どこまで人が許される行為なのか？」を考える必要があると思う。今の技術をもってすれば、個人の細胞から臓器を作る事もできるようになるだろう。このままいけば、人そのものの複製、つまりクローンを作成する事も可能になるかもしれない。しかし、ここでもまた大切な問いが示される。「医療で可能なことはなんでも許されるのか？」どこまでが人の行為として許されるのか、医療の倫理について難しい問題ではあるが、もっと議論が必要ではないだろうか。

1月11日(木) テーマ:「人生を変えた出会い」

佐久間 功規(経済学部1年)

皆さんは、「自分の人生を変えてくれた人」に出会ったことがあるだろうか？私にとって、その「人」とは、中学3年生の学年主任H先生だ。私は様々な状況から悩みの多い中学生生活を過ごした。常に苛立ちと不安定さを抱えていた私は、明確な目標も持てず、自分で自分に諦めていた。そんな時、H先生から「佐久間、本当のお前の力はこんなものじゃない。新しい高校でがんばってこい!!」と言われた。H先生は、何度もトラブルを起こす私を粘り強く支え導いて下さった。そんなH先生の言葉を聞いた時、私は心から感動し、そしてその言葉は私にとって大きな「目標」となった。中学校を卒業し、H先生の言葉を信じて高校で勉強をがんばり、KIUに入学した今に繋がっている。私にとって、H先生との出会いは人生を大きく変えた、かけがえのない恵みであったように思う。これからも感謝しながらがんばっていきたい。今日、ここにいる皆さんの中にも「人生を変えてくれた人」との出会いがあると思う。また、見方を変えれば、皆さん一人ひとりが周りの人にとっての「人生を変えてくれた人」になるかもしれない。KIUでの学生生活を通して、そのような出会いを大切にしていきたい。

(文責:野間 光顕)

